



## 「広島女学院イヤー」から、更なる飛躍へ

理事長 中川 日出男

2016年という年は、広島でG7外相会議等の世界的会議や全国会議が多く開催されたり、オバマ大統領の来訪やリオオリンピックでの広島出身選手の活躍、また広島東洋カープが25年ぶりにセリーグ優勝したり、広島が全国的に注目された年であり、広島イヤーと呼ばれています。

私は、実は広島女学院イヤーでもあったのではないかとも思っています。4月にG7外相会議が開催された際は、「G7外相会合配偶者プログラム」の一環として、5人の外相夫人の方々が広島女学院中高を訪問され、生徒達と交流が行われました。

5月に現職アメリカ大統領として初めて広島を訪れたオバマ大統領が平和記念公園で献花した際に、花輪を手渡す大役を担ったのは広島女学院の高校生でした。外務省のホームページにその時の写真が掲載されています。

9月には創立130周年記念講演とオルガンコンサートを開催し、多くの人達に喜んでいただきました。

そして、年の締めくくりに12月には、湊学長が、一貫してキリスト教を基盤としたリベラルアーツ教育、女子教育に尽力したこと、また長年発展途上国の教育振興に貢献したことが認められ、第25回ベスタロッター教育賞を受賞されました。

このように2016年は広島女学院ブランドを対外的にアピールできた年であり、まさに広島女学院イヤーであったと思います。

さて、2017年はどうか。私は2017年は2018年学部改組による飛躍のために準備をする年だと思っています。

現在、大学内では、2018年の学部改組スタートに向けて作業が大詰めを迎えています。厳しい経営環境を脱却するためには、是非ともこの学部改組を成功させなければなりません。2018年の学部改組を契機に広島女学院が更に飛躍するためには、安心で快適な教育環境の整備が必要です。このため、2017年には、耐震改修やかねてから要望のあった女子トイレの改修等を行う必要があると思っています。

厳しい経営環境の中で、このような整備を行うには、教職員の皆さんの御協力が必要です。教職員一丸となってこの学部改組を成功させましょう。

また奨学金制度の充実や教育研究施設・設備の充実等を目的に、創立130周年記念募金をスタートさせました。

こちらにつきましても、教職員、同窓生、関係者等の御協力、御支援をお願いします。



大学

University

2018年度から女性の一生涯を視野に学部・学科の再編を予定

女性の働く環境は整ったとは言え、女性管理職の比率は依然として低い。女性・男性を問わず金銭化される仕事に従事している時だけが「キャリア」ではなく、育児・介護などを含んだ「ライフキャリア」をいかに生きるかが大切である。大学で何を身に着けたかによって人生は変わる。

これまで国際教養学部を再構築して「人文学部」とし、「国際英語学科」と「日本文化学科」を置く。「国際英語学科」には「GSE」コースとして英語で学ぶコースと、「英語文化コース」を置き、国際的に通用する英語力と国際的視野に立った行動力を学ぶ。GSEではより積極的に留学生を受け入れる。自国の文化である日本文化を外国に発信する使命を果たすことが出来るように日本文化学科を独立させ、専

門的に学べるようにする。女性ならではの感性を活かして、地域や生活をゆたかにする力を身につける「人間生活学部」は、現代のニーズに合うように充実させる。管理栄養学科は、今回の改組では触れずに、生活デザイン学科を「人、生活、もの、地域を創るデザイン」を学ぶように充実させる。少子化の危機を迎えるに当たって、幼児ではなく「児童教育学科」に変更する。本学は女性の一生涯(ライフキャリア)を豊かにする教育を実践する大学に大きく舵を切る。ただし在学生の方、2017年度入学者については、2018年度以降も学科・専攻の名称は変わらない。入学時の教育課程は卒業まで保証される。(学長 湊晶子)

湊学長が「ペスタロッチー教育賞」を受賞

12月22日に広島大学において「ペスタロッチー教育賞」の表彰式が行われ、湊晶子学長が第25回受賞者として表彰され、記念講演を行いました。表彰式では、実行委員長の越智光夫広島大学長より、湊学長がキリスト教主義を基

盤としたリベラルアーツ教育の実践家として、また女性史研究者として教育と研究を先導し、戦後日本の社会の中で人格的成長を阻まれていた女性に対し、自立の在り方を示したこと、東京女子大学学長、広島女学院大学学長、日本私立大学連盟理事、大学基準協会監事として高等教育に貢献するとともに、ワールドビジョン・ジャパン理事・国際理事として途上国の教育振興に長年尽力してきたことが、貧児を集めて教育の機会を与え、どのよ

うな状況にいる子どもも知的にも道德的にも学ぶうことを証明したペスタロッチーの精神に通ずる功績であるとの授賞理由が述べられました。記念講演は、「いまを生かす新渡戸稲造の精神」教養教育と女子教育」と題して行われました。まず、ペスタロッチー、新渡戸稲造、森戸辰男に共通した教育の原点が人格神との関係性、対話性の中に形成される人格教育にあるとの分析に基づいて、人格(Personality)とソシアリティ(Sociality)を育成し「ぶれない個」を確立することが新渡戸稲造が目指し実践したりペラ

ルアーツ教育であると論じられました。そして、新渡戸の(副学長 桐木建始)

第34回公開セミナー「人間生活と文化」



2016年度公開セミナーが10月8日、10月15日、10月22日、10月29日の計4回実施されました。今年度は、「栗原貞子作品を読む」、「日本の伝統文化と現代アートの融合」、「健康的に年を重ねるには」と人間の生活や文化に関する幅広いテーマが設定されました。また、セミナー初回は、幼児教育心理学科開設10年の記念行事として企画していた山極壽一先生(京都大学総長)の特別講演「ゴリラからみた人間の子ども」の不思議な地域の皆様方にも聴講いただきました。学長類研究の第一人者である山極先生からは、人間に近い類人猿であるゴリラ

と人間との違いや共通点を教えていただきました。人間の子どもの成長させるための、長い乳児期を必要とします。大変な労力のかかる子育てをするために、人間は豊かな共感能力により家族や共同体による共同の育児を行ってきたことを学びました。今回のセミナーでは、それぞれの専門分野について、「演習」を交えてわかりやすく解説いただき、参加者からは「興味深く、有意義であった」との声をいただきました。参加者数は延べ405名、修了証書授与者数は33名でした。(幼児教育心理学科主任 中村勝美)

国際教養学会 公開講演会 2016年度国際教養学会公開講演会が、11月2日に開催されました。講師は、本学の卒業生で、フリーアナウンサーとしてRCCテレビ他でご活躍されている、桑原しおりさんでした。桑原さんは、「アナウンサーの放送もやま話」という演題にそって、アナウンサーというお仕事の舞台裏を楽しく具体例を交えながら語ってくださいました。また、「アナウンサーになりたい」という小さい頃からのご自身の夢をかたちにされるまでの歩みを示さ

れながら、女学院生が進路を拓くための貴重なアドバイスをくださいました。軽快なテンポの語り口に引き込まれ、あつという間に過ぎた90分間で、まさに話し方のお手本ともなるご講演でした。(国際教養学科 准教授 植西浩一) フリーアナウンサー 桑原しおりさん



2016年度 秋季講演会報告

管理栄養学科	演題 「お口の健康への新しいアプローチ！」	講師 広島大学大学院 医歯薬保健学研究 院 口腔生物工学分野 一川 浩樹教授	日時 2016年11月9日(水) 15時	場所 人文館303教室
生活デザイン・建築学科	テーマ Get Over Yourself (新しい未来へ向けて)	演題 「デザインの解像度」	講師 株式会社サムライ アーキテクト 齊藤 良博氏	日時 2016年11月30日(水) 14時45分
				場所 人文館303教室

# 2016年度秋季宗教強調週間

2016年10月17日(月)～21日(金)

## 「歴史に学び、歴史になることの重み」

今季宗教強調週間は「歴史」を強く意識する時となった。

17日(月)特別チャペルは、本学大学院言語文化研究科日本語文化専攻博士課程後期で研究に意欲的に取り組んでおられる松本滋恵さんが、今夏、本学代表として沖繩キリスト教平和研究所主催の平和研修に参加しての報告を、被爆者であるご自身の平和への強い思い

に重ねつつ語って下さった。18日(火)「キリスト教の時間」19日(水)「特別講演会」には小見のぞみ先生(聖和短期大学教授・宗教主事)を特別講師としてお迎えした。「キリスト教の時間」では、小見先生が担当する授業の課題として学生から提出された、マタイ十三(九種まきのたとえ)のストーリー「タネくんの旅」の解題が語られた。「聖書

は大人の男が大人の男に向けて書いた本」という指摘にはハッとさせられたが、それを「わたしたちのため」の物語」として読み解こうとする、小見先生と教え子のコラボレーションに魅了された。

「特別講演会」では、聖和短期大学のルーツの重要な一端である「広島女学校保母師範科」の歴史について、すなわち、西宮から見た広島女学院の宝についてお話をくださった。校母ゲーンズ先生は、当時の日本で軽んじられていた女性と子どもにこそ一番良いものを、と願って本学院の礎を築き、「一人ひとりが、神様にいのちと

権利を与えられた存在である」ことを、生涯をかけて伝えてくださったが、幾度もその苦難におそわれるたびに、状況そのものではなく、神のみこころが成ることのみを見つめて歩まれたことが、史料の端々に伺われるという。学院創立一三〇年の節目に、新鮮な思いでこの証言に聞き入った。

18日(火)に小見先生を講師としてお迎えして行った教職員研修会には、ゲーンズ幼稚園からも多くの先生方にご参加を賜り、意義深いひとときとなった。(チャプレン 澤村雅史)

## 第67回あやめ祭開催

11月19・20日の土日で県内私立大学最古の大学祭(あやめ祭)が開催されました。元気な売り声が飛び交う

模擬店通り、フリーマーケットや子ども向けプログラムでにぎわうヒノハラホール

の光景は例年と変わりませんが、実は今年はいと味違うあやめ祭でした。

というのも、今年度のテーマは、「歩 Brand new Stage」。実行委員長田中カレンさんによると、これまでの伝統を踏まえつつ新たなステージに踏み出そう、という思いで、野外ステージでのフリーライブ、恒例のファッションショーでは若い女性に大人気のファッションブランド「サマンス・

タブサ」とのコラボレーションを実現させるなど、新たなステージに確かな一歩を踏み出すことができたようです。

勇壮な早稲田ふれあい太鼓の演奏でスタートした野外ステージは、音楽系サークルの演奏、大学対抗のゲームやスタンプで大変な盛り上がりを見せます。さらに今売出し中の地元バンド、三研先生率いるTE@CHERSとテレビラジオレポーターで活躍中の本学卒業生松原千秋さん、同じく卒業生がパワフルなボーカルを聞かせる「万貴音(まきね)」が心温まるステージを繰り広げます。そして気鋭のシンガーソングライター坂本奨吾さんによる熱唱で野外ステージを締めたいました。



生活デザイン・建築学科OGによるファッションショー「サマンス・」

学園祭の呼び物といえはトークショー。今年お招きしたのは俳優の吉沢 亮さんでしたが、熱心なファンの方が大勢詰めかけ、砂本

最後に、広告掲載や商品提供を通じてご支援くださいました企業やお店の皆さま、お手伝いやお来場くださった地域の皆さま、いつもこのようにあやめ祭を盛り上げてくださった他大学の学園祭実行委員会の学生の皆さん、そして母校愛に満ちた卒業生や教職員の皆さまにこの場を借りて深くお礼申しあげます。(学生課長 宇根治)

## 新科目「災害支援実践セミナー」を開講

災害等緊急時を想定した対応を考えることにより、管理栄養士としての実践力向上に繋げることを目的として、今年度から2年生以上の学生を対象に開講しました。

セミナーでは、行政の方を招聘しての講話、ライフラインが途絶えた時を想定した食事考案・試作、広島市総合防災センターでの体験学習にも取り組みました。また、オープンキャンパスでは展示、炊き出し、災害にちなんだベジフルメニューの提供を行いました。これらの学びを通して、まずは自らの防災意識を高め、防災知識や災害時の行動力、対処方法を身につけて

ることが大切であることに気づき、さらに管理栄養士として求められる姿を考え、自身のキャリア形成へも繋げていくことを期待しています。(管理栄養学科 下岡里美・渡部佳美・市川知美)



AEDを使用した救命訓練

## 「ひろしま街づくりデザイン賞」街並み部門賞受賞!

牛田商店街振興組合と生活デザイン・建築学科とのコラボ企画(2013年8月～2015年11月)で生まれた牛田商店街の街路灯が、広島市主催のコンペ「第15回ひろしま街づくりデザイン賞」街並み部門賞を受賞しました。このコンペでは、2010年大学ゲーンズチャペルが第12回大賞に輝いています。

街並み部門では、魅力ある街づくりをつくりだしている作品が表彰されますが、加えて地元商店街と大学の地域連携活動が評価されました。この様な機会をいただき、牛田商店街及び関係者の皆様に感謝いたします。今後も地域貢献となる美しいデザインを目指して、切磋琢磨していきます。(生活デザイン・建築学科 教授 細田みぎわ)

街並み部門では、魅力ある街づくりをつくりだしている作品



ほおずき通りに灯る街路灯

中学・高校

Junior high school & High school

「百花、諒、乱」の中学生の活躍

今年の文化祭では、新たに中学生専用の展示会場が設けられたり、中学生がPTAバザーに協力したりと、ますます中学生の活躍の場が広がりました。

中でも最も印象的だったのは、部活動に所属していない中学生の活躍です。文化祭準備日には、彼女たちと共に装飾をしました。和気あいあいと手伝ってくれたので、楽しいうちに仕事も終わりました。当日の受付や靴袋配りの仕事では、来場者に大きな声で元気よくあいさつをしていました。

また混雑していたら空いてる方へ誘導するなど、お客様への対応が素晴らしいと思います。



たくさんのお客様に来ていただきました

五人委員が企画したスタンプリーでは、行列ができるほどのたくさんの子どもたちが参加してくれて、たくさんあった景品の餞も午後の早い段階で無くなっ

てしまうほどの大好評でした。スタンブが置いてある場所をすべて回った女学院生も多かったので、嬉しく思いました。

また年に一度の文化祭という行事を通して、女学院生とお客様が何年振りかの再会をしている光景も見られ、とても微笑ましく思いました。

今年の文化祭では、生徒1人1人が個性を出し合い、テーマの「百花、諒、乱」に沿うことができたと思います。来年の文化祭では、今年度の反省も生かし、みんなが協力して、もっと盛り上がりましょう。

(中学五人委員 中井志野、メルガレホ・ディナ)

吹奏楽部のファンファーレで幕開けした文化祭も無事に終わることができました。今年は高校新体操部のパフォーマンスのおかげで大盛り上がりの開門となりました。

テーマは「百花、諒、乱」。たくさんのお客さまが「諒」という本来の意味に、「諒」という字を当てはめ、「お互い」を思いやるという意味を合わせました。このテーマに沿い、クラス発表は、パフォーマンス、迷路、プラネタリウム、緑日、おけけ屋敷を高校1年生と2年生が限られた時間の中で協力して準備を進めることができました。常にお客様の出入り



高校新体操部のオープニングパフォーマンス

があり、大盛況でした。クラブ発表は、日頃の活動の成果を見ていただけたのではないのでしょうか。各々が個性を発揮し、ベストを尽くすことができました。また、今年は時間を30分早めたことでより多くの発表ができ、充実した文化祭になったと感じました。

さらに、広島女学院創立130周年を迎えた記念として、文化祭ポスターのデザインでファイルを販売しました。女学院の歴史を大切に受け継いでいきたいと思えます。

執行委員会では顔出し看板を製作しました。サイズやデザイン、組み立てなど1から自分達で作りましたので、看板でお客様が撮影している姿を見てとても嬉しかったです。中学生の作品展示や写真部による喫茶など新たなものにもチャレンジしました。来年度はさらに素敵な文化祭にしていきたいと思えます。

先生方や事務職員の皆様保護者の皆様の大きな力に支えられて文化祭を行うことができました。ありがとうございました。

(高校生徒会執行委員会 吉光 沙梨花)

高2 修学旅行

高2は、10月4日(火)7日(金)の4日間、修学旅行で沖縄に行ってきました。前半の2日間は平和学習と文化を楽しむという内容でした。台風の影響で飛行機が飛ばか心配でしたが、無事に沖縄に到着し、4日間ほほほほ楽しんでいました。

前半の2日間で、比嘉さんから現在に至る米軍基地問題のお話を聞いたり、実際に糸数壕に入るなど様々な体験をしました。糸数壕に入ると、それまで楽しく入っていたクラスメイトも真剣な顔つきになり、沖縄戦の当時の様子を感じていました。

中3 研修旅行

私たち中3は、10月5日から7日までの間、長崎研修旅行へ行き、歴史と文化に触れてきました。1日目は別荘で平和について学習しました。実際に被爆された方々の話を聞き、当時の様子や原爆の被害に衝撃を受けました。

2日目は歴史と文化について事前学習で調べたことをもとに長崎の街を歩きました。長崎で活躍したたくさんのお客さまの功績を知ることができました。

3日目はハウステンボスをエンジョイしました。1日目、2日目で発見した長崎の良いところはまた違う一面も発見できた1日でした。2日間で仲を深めた

3日目は各自で選んだ体験学習をして沖縄の自然を体験しました。海がとてもキレイで感動しました。今年度から飛行機の時間に余裕ができたので国際通りを存分に楽しむことができ、満足でした。今回の修学旅行は内容がとても濃く充実したものでありました。この経験を今後のPSに活かし、より深めていきたいと思えます。(高2 新澤佳奈)



エイサーを踊りました

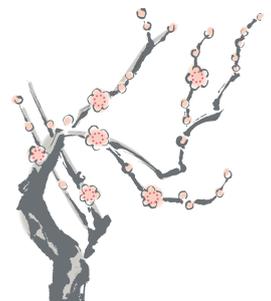


原子爆弾落下中心地碑で祈りを捧げました

班のみんなと一緒に過ごしたハウステンボスは絶対に忘れることのできない思い出となりました。3学期には、長崎で学んだことを踏まえ、小論文を作成します。広島とは少し違う長崎の原爆観なども伝えられるように研修で学んだことをまとめていきたいです。(3年1組旅行員 國本・兜玉)

生徒の活躍

- ◎ 中学放送部 中3年 仲澤陽菜
- ◎ 第33回NHK杯全国大会 朗読部門 優良賞
- ◎ 中学合唱部 第55回中国合唱コンクール 高1年 豊田光彩 銀賞
- ◎ 第4回中国高等学校 新人水泳競技選手権大会 400m個人メドレー 5位
- ◎ 200m個人メドレー 6位
- ◎ 高2年 阪本愛 第60回日本学生科学賞 入選 2等
- ◎ 中2年 山本利咲 高円宮杯第68回全日本中学英語弁論大会 決勝進出
- ◎ 中2年 岡田知夏 ベーテン音楽コンクール 中国地区本選 最優秀賞
- ◎ 第10回ベーテン音楽コンクール中国地区本選
- ◎ 中2年 踊場まこ 優秀賞
- ◎ 中3年 宮坂妃奈乃 最優秀賞 (2名とも全国大会出場)



# キリスト教強調週間(11月14~19日)

主題「あるがままのいのち」、主題聖句「自分の命のことで何を食べようか何を飲むのかと、また自分の体のことで何を着ようかと思いの悩むな。」(マタイによる福音書6:25)、講師に川越厚先生をお迎えしました。

## 「豊かな人生」

高3 二井合葉

川越先生は、広島学院高校ご出身で、最先端の医療現場で働かれています。が、ご自身が癌になり、末期癌患者の「人生の最期は自宅で」という願いを支える在宅ホスピス医療に転じられました。講演では、祖母を亡くした中3少女の文章を紹介しながら、人間がいつかは迎える死を前にした時、「今のあるがままを受け入れ、愛わっていく必要があること、自分だけの力で全て解決しようとするのではなく、私たちの命を創り支えて下さる神様に信頼し、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」(ローマの信徒への手紙12:15)という聖句のように苦しんでいる人に寄り添うことの大切さを語りました。

川越先生のお話を聴きながら、涙が止まらなかった。それは祖父のことを思い出したからであり、今までの自分を恥じたからだった。私は7歳の時に祖父を亡くした。祖父は末期がんと診断され、余命半年と宣告されてから、2年半半生きて亡くなった。その2年半の間、私はやせ細り、衰えていく祖父と向き合おうとしなかった。お見舞いに行くことが大嫌いだ。行っても、祖父の顔を見ようとしなかった。祖父が亡くなった時、冷たくなった体に触れ、父から「これが死ぬということだよ」を言われて、後悔の念にさいなまれた。その後悔は今も続いている。しかし、いったい何に対して自分が後悔しているのか、よくわからずにいた。



講師の川越先生

川越先生のお話を聞いて、その後悔の意味が分かった。あるがままの祖父を拒絶していたことへの後悔だった。変わった姿の祖父。私たち家族のもとからいなくなってしまう祖父。そんなあるが

ままのお爺ちゃんを受け入れることができてなくてごめんない。今までどんな私でも受け入れてくれたお爺ちゃんを拒絶してごめんない。そういう後悔だったのだ。

私は祖父を亡くしてから、人が死ぬということはどういうことか、ずっと考えてきた。その中で、本を読んだり、医療職に就いている人と話したりするうちに、命に直接関わる仕事があった。そして進路を看護の道に決めた。しかし、私は命に直接関わることの責任と重みを本当の意味では理解していなかったように思う。

命に直接かかわるということは、「あるがままのいのち」、すなわち死に向かっている命と向き合うことでもある。また、愛する人の死を受け入れようとするご家族に寄り添うことでもある。それは簡単なことではない。私は今日、自分の選んだ進路の重みを知った。そして同時に、この進路を選んでよかったと思った。絶対に避けることのできない死に對して、真摯に向き合う人間の姿に、美しさを感じたからだ。

昼の集いで川越先生は、「死を看取る医療」について、「自分の時間を他者に捧げることができるとかどうかが重要」とおっしゃった。思い出してみると、これまでのキリスト教強調週間で出会った先生方は皆、他者のために人生を捧げている方だった。私は6年間の女学院での学びを通して、本当に豊かな人生とは、他者のために生きる人生なのだと学ん

# 中高 クリスマス行事

アドベントになると、中学校地には**讃美歌コンクール**の練習の歌声が聞こえてきます。当日は各クラスが美しいハーモニーに合わせ、クリスマスや聖書の語るメッセージの豊かさを伝えてくれました。

**中学クリスマス礼拝**では、讃美歌コンクール課題曲の学年ごとの合唱を、合唱部の合唱、YWCA部のハンドベル、放送部の聖書朗読、礼拝委員の感謝祈禱などと共に捧げました。

**高校クリスマス礼拝**は、今年も「音楽」がテーマで、音楽部、音楽選択生、吹奏楽部、オーケストラによる合唱や演奏、最後は、星野

# 日米・高校生平和会議

(宗教教育委員会)

9月中旬、首都大学東京の渡邊英徳研究室主催の「日米高校生平和会議」に、署名実行委員会から高2生2名、高1生2名がアメリカ・ニューヨークとボストンに派遣されました。ヒロシマアーカイブの更なる活用方法をもとに考えるこの会議には、延べ100名以上の高校生、一般市民が参加し、大変有意義な会議となりました。

会議は3回実施され、1回目はニューヨークの国連本部内にある国連軍縮部で、本校卒業生のサロウ節子さんが、ご自身の被爆体験と平和活動についてお話ししてくださいました。2回目はハーバード大学内サ

イエンスセンター、3回目はボストン市立図書館でした。ボストン会場では元聖書科教員の藤本治祥先生が、被爆体験と信仰についてお話ししてくださいました。お二人ともこの会議で若い世代の取り組みや姿勢を高く評価してくださいましたが、会議を成功に導いてくださったのは他ならぬこのお二人でした。



本校生徒は左の4人、スクリーンに映っているのは藤本治祥先生

ただでなく、広島女学院の卒業生にもお会いでき、本校のスピリットが様々なところで息づいていることを感じることができました。(グローバル教育推進部)

校長先生の指揮のもと全校生徒のハレルヤ合唱がホールいっぱい響きわたりました。司会と感謝祈禱を宗教委員、聖書朗読を放送部が担当しました。夕方から行われた一般公開の**女学院クリスマス**では、高校礼拝のプログラムに中学YWCA部のハンドベルが加わり、保護者、卒業生、受験生とそのご家族、市民の方々にも女学院のクリスマスの豊かさを味わっていただけました。

中国出身の劉ぶん竹師先生(日本バプテスト連盟広島教会副牧師)から、イエスの誕生に最初に出会った羊飼いたちの物語から、社会の中で排除され、傷つけられ、希望を失っている人たちに神様は救いを告げられた、人生の中でどんな時に神様が共にいて支えて下さる、それがクリスマスなのだと伝えていただきました。

なお、クリスマス献金は、国内外の福祉・支援団体に寄付させていただきます。(宗教教育委員会)

幼稚園  
Kindergarten

『さくらんぼ  
ルーム』

広島女学院ゲーンズ幼稚園では、子どものニーズに  
応えるために預かり保育『さ  
くらんぼルーム』を開設して  
います。朝は、7時半から  
通常保育が始まる8時半ま  
で、保育終了後は17時まで  
(保育を必要とする子ども  
の場合18時半まで)、在園児を  
対象に行っておりです。幼  
稚園ホールを主な活動場所  
としていますが、通常の保  
育よりもさらにゆつくりと  
した流れの中で、いつもは  
二百人で遊ぶ園庭を少人数  
で広々と使って遊んだり、ぼ  
うけんのもりや大学グラウ  
ンドに遊びに行くこともあ  
ります。

その利用希望者は、年ご  
とに増えてきており、物的・  
人的な環境を整えていく課  
題が生じてきています。国  
をあげて子ども子育て支援  
が推進される中、大人の都  
合に偏ることなく、子ども  
の最善の利益を守ることを  
大切に、そして何より、キ  
リスト教保育の営みの中で、  
子どもたちが安心して過ご  
せる居場所づくりを丁寧  
に、大切にこれからも進めてい  
きたいと願っています。皆  
様のご支援をどうぞよろし  
くお願いいたします。

(園長 高田憲治)



おもい出てきたよ

クリスマス

アドベントクラランツに一本ずつつ  
うそくの火が灯る中、クリスマス  
迎えるまでの日々を大切に過ごして  
参りました。讃美歌を歌ったり、礼  
拝の時を持ちたり、プレゼント作り  
をしたり、ページェントの準備をす  
る毎日は喜びに満ち溢れています。

また、クリスマス礼拝では年長児  
がページェントを行い、年中少の子  
ども達も聖歌隊となって参加し、ク  
リスマスの本当の意味を伝え、大好  
きな家族や友だちと喜びを分かち合  
う温かい時間となりました。これま  
でたくさん愛を与えられてきた子  
どもたちだからこそ、今度は自分た  
ちがクリスマスの喜びをみんなに与  
えたいという思いになれたのでしょ  
う。イエス様を私たち一人一人が、  
心の中にお迎えして、クリスマスを  
お祝い致しました。

(幼稚園 平野ユミ)

実りの秋をありがとう

秋が訪れ、幼稚園は赤、黄、オレ  
ンジの美しい紅葉と沢山の実りに恵  
まれました。園庭にはどんぐりがどっ  
さりとなり、その実を使って制作活  
動やままごとを楽しんだり、豊作だつ  
たかりんの実を、砂糖とつけてジュ  
ースにしました。

また、今年は例年いっし被害に  
よって涙を吞んでいた芋の収穫を3  
年ぶりに行うこともできました。子  
ども達の泥だらけになった手と笑顔  
を見て、改めて当たり前ではない収  
穫できることの喜びを感じる時とな  
りました。11月には収穫した芋や家  
庭から持ち寄った野菜や果物を囲ん  
で収穫感謝礼拝をまもりました。今  
年も子ども達と共にたくさん秋を  
感じ、感謝と喜びをもつて過ごせた  
ことをとても幸せに思います。

(幼稚園 小原由美子)



アドベントカレンダーを一枚ずつめくります。クリスマスが待ち遠しいね



羊飼いのところへ天の使いが嬉しいお知らせを一番に伝えに来てくれます



感謝祭の果物を囲んで

動物介在教育活動

幼稚園では、2011年  
度より広島大学谷田創教授  
と広島アニマルケア専門学  
校の学生と協力して、「動物  
介在教育」を行っており、今  
年度の主な活動は、「ぼう  
けんのもり」にカメラを取り  
付けて野生動物を観察した  
り、園の飼育動物や学生が  
連れてきた動物とふれあい  
でした。また、広大農場に  
出かけて畜産動物と出会う  
など、多種多様な動物が私  
たちの生活に関わり支えて  
もらっていることを感じま  
した。こうした動物目線か  
ら伝えてくごさる方々との  
ネットワークを生かして、  
これからも命を大切にする  
心を育んでいきたいと思  
います。

(幼稚園 櫻木景子)



めえーって言ったらきてくれたよ

### エキキタ地区再開発

現在、JR広島駅新幹線口周辺地区(エキキタ地区)の再開発が活発に行われています。本学が地域連携活動の一環として、エキキタ地区の地図の英語化にあたりました。これまでエキキタ地区の英語版地図がなかったため、増加する外国人観光客にとっても便利な案内となります。

作成は、国際教養学部3年生の田中里奈さん、国際教養学部のHerbert先生、Hollenbeck先生、Wilson先生、永野先生(エキキタまちづくり会議アドバイザー)が

担当しました。

(国際教養学科 講師 永野晴康)



英語版の地図を持つ田中さんとHollenbeck先生

### TOEIC Help Sessions

国際化が進む現在、英語力のある人材を求める企業が、採用の際に英語力の目安とするのはTOEICの力です。

私たち4名の国際教養学部英語教員、R・黒飛、J・シューバ、T・ウィルソン、P・スパイサーは、学生たち



Jamie sensei with his session students

が在学中にTOEICのスコアを上げて就職活動に取り組めるよう、TOEIC Help Sessionsを立ち上げ、英語力でキャリアアップを希望する本学の全学部全学生を対象にサポートを行っています。

セッションは毎週放課後、学生のニーズに合わせて、相談しながら進めます。5人以下の少人数制のリラクゼーションの雰囲気の中で授業によって、本番で100%の力を発揮できるようにTOEICの「戦略」を指導し、スコアアップの結果を出しています。

(国際教養学科 助教 ポール・スパイサー)

### 「水筒系女子」プロジェクト

このプロジェクトは、女学院でのペットボトルの消費を抑えることを目的として、GSEの学生8名によって5月に発足した。

これまでに、プロジェクトホームページの作成、SNS上のインスタグラムアカウントの作成、ポスターの作成、オリジナルステッカーを貼った水筒の無料配布を行ってきた。

これからは、毎週ソフィア館に捨てられているペットボトルと缶の数の記録、報告、インスタグラム上での活動がメインとなる。インスタグラムでは、エコな情報、ドリンクのレシピなども紹介し、プレゼンなどがあたるキャンペーンも秋学期の間、毎月行われている。

代表の石井友梨さんはこの活動がきっかけで、女学院の学生の日々の選択を、環境に考慮したものに変わっていきたいと言った。パリ協定の効果が危ぶまれる今日、こうした身近な意識の改善が地球を救うことになるだろう。

(国際教養学科 教授 宮本陽子)



オリジナルステッカーを配布する学生

### 第16回 広島女学院 クリスマスツリー 点火音楽礼拝報告



アンサンブル・エスポワール、聖歌隊演奏・合唱風景

待降節(アドヴェント)入りした11月28日(月)夕べ、第16回となる恒例の広島女学院クリスマスツリー・点火音楽礼拝が、ランバスホール前広場にて、学生、園児、教職員、保護者など総勢約1500名が集うなか行われた。

チャプレン 澤村雅史先生の司会により、讃美歌112番「もろびとこぞりて」をみんなで合唱。聖書・ルカによる福音書2章1-7節の朗読、お祈り、讃美歌21-269番「かいはおけにすやすや」と再び合唱した。

続いて、院長・学長の湊晶子先生よりクリスマス・メッセージが語られた。イエス様は生まれて、母・マリヤさんに抱かれた状態でなく、馬小屋の「飼いの葉桶」に寝ていらした。そんなご誕生、それこそ私たちの救いのためのお生まれであったこと。それを聖書から丁寧に話してくださった。学生、園児、教職員、保護者など皆が、湊先生のお話に静かに聞き入った。

その後、アンサンブル・エ

スポワールによる「あらののはてに」(讃美歌106番)の演奏、聖歌隊&アンサンブル・エスポワールによる「まきびとひつじを」(讃美歌103番)の演奏・合唱、さらに聖歌隊による「Nativity Carol」の合唱と続きクリスマス・の雰囲気を感じ上げた。続いて、ゲインズ幼稚園の園児による合唱「アドヴェントクランツに」、「かみさまのおやくそく」、「We Wish You a Merry Christmas」と園児の可愛い歌声が響いた。

そして、クリスマスツリー点火式の時は訪れた。参加者全員でカウントダウンを行い、湊院長・学長、学生代表、園児代表がともに点火スイッチを押し、夕空にツリーの電飾が煌めいた。

最後は、讃美歌「きよしこのよる」を合唱、澤村チャプレンによる祝福をもって点火音楽礼拝は終了した。クリスマスツリーは、12月25日(日)まで、毎日17時から20時30分まで点灯された。(宗教センター事務課長 坂野康文)



夕空に煌くクリスマスツリー

### 同窓会からのお知らせ

#### 2017年 ホームカミングデー

テーマ:今、私たちにできること ~平和を実現する人々は、幸いである~

日時:2017年4月22日(土) 10:30~13:30

場所:リーガロイヤルホテル広島

会費:10,000円

#### 2017年ホームカミングデー実行委員会

当番学年 高校17 短大16 大英17  
 高校27 短大26 文英9 文日9  
 高校39 短大38 文英21 文日21

#### 広島女学院大学の学生の皆様へ

卒業しても、女学院スピリットを持ち続けるために、同窓会に是非ご入会ください。卒業後、年間を通して母校より学院報と同窓会報「花あやめ」がお手元に届きます。母校からのメッセージがいつまでもあなたの心に届きますように。

お問い合わせ 同窓会事務局 TEL・FAX 082-221-1059

事務局

Secretariat

会議報告

10月定期評議員会

2016年10月15日10時から開催。

諮問事項として、大学改組について、湊学長から「2学部・5学科、入学定員330名」案を進めていることの説明があり、改革の理念・目標の明確化、特徴の打ち出し、支出面の改革等課題への対応などについてのやり取りの後、承認した。

次に、2016年度事業計画の執行状況について、法人及び各校部からの報告があり、質疑応答の後、了承した。

報告事項として、各校部からの学事報告の後、財務の状況、創立130周年記念募金についての説明があった。

第147回理事会

2016年10月25日14時から開催。

選任事項として、今年度末で任期満了を迎える桐木建始副学長、村上人間生活学部長を再任することとした。

なお、任期は2017年4月1日から改組までの1年間。審議事項として、2016年度事業計画について、財務改善の取組み、PDC Aサイクルの点検・評価の充実、中

高幼の学外評価の検討等の意見が出された後、承認した。

次に、在学生の卒業に伴う文学部英米言語文化学科の廃止について、承認した。

報告事項として、各校部からの学事報告の後、大学教員人事として、幼児教育心理学教員2名の採用と任期付教員9名の専任登用を2017年4月1日付けで行うこと報告があった。

次に、その他として、利島監事から「文部科学省平成28年度学校法人監事研修会」に係る報告があり、中川理事長から「創立130周年記念募金趣意書」の作成・送付について説明があった。

2016年11月22日14時から開催。

審議事項として、砂本貞吉奨学金の授業料減免率を100%とし、給付に係る成績要件を引上げるための規程改正を行った。

報告事項について、各校部からの学事報告の後、2017年3月31日付けで任期満了となる高田園長の後任候補選考委員会委員の選任、2017年度予算編成方針、退職者補充等による幼稚園教員3名の2017年4月1日付け採用、大学教員4名の2017年4月1日付け昇任等について、説明があった。

第32回広島女学院クリスマスコンサート・メサイア

第32回広島女学院クリスマス

マスコンサート・メサイアは、星野晴夫校長先生の指揮により12月23日(金)ゲーンホールにて開催されました。多くの方々のご指導、ご協力、ご参加により大変感動的な音楽をお捧げすることが出来ました。年末のご多忙の中、ご来場いただいた皆様、練習に足を運んでくださった参加者の皆様、運営にご尽力くださった皆様に感謝申し上げます。

今回は広島女学院が130年を迎えたということと、幅広い世代の方が集い、心をひとつにして音楽を創りあげるとい

う事の意味が、より深められたのではないかと感じております。メサイアで歌われておりますイエスキリストの生涯の様に、決して容易な事ばかりではなく、苦難の日もございました。しかし、沢山の皆様のお力があつたからこそ、当日を無事迎えることが出来ました。

学生たちは、一生忘れることのない経験をしたと感じ

ております。

聖歌隊の活動としても、今回ははじめ、様々な場面で歌う機会をいただけていることを、喜ばしく思います。

すべての機会において最高の音楽をお捧げできるよう、日々練習に励んでおります。

最後になりましたが、今後もメサイア・コンサートの時を皆様と過ごすことが出来ることを聖歌隊一同心より願っております。

(聖歌隊クワイヤ隊長 人間生活学部幼児教育心理学科 3年 山田絵美佳)



教職員動静

9月16日～11月30日受付分まで

結婚

寺本 恵理子(中高教諭)

市田と改姓 2016.9.22

勝井 慧

(大学国際教養学部専任講師) 戸田と改姓 2016.9.27

誕生

結美子ちゃん(前瑛子中高教諭ご息女) 2016.10.1

音ちゃん(有里亜友美幼稚園教諭ご息女) 2016.10.5

慧人君(竹林拓也中高教諭ご息子) 2016.11.11

召天

藤田 芳男様

(元中高教員) 2016.2.10

橋本 美香子様

(橋本一夫大学国際教養学部教授ご令室) 2016.9.20

加藤八重子様

(加藤佳輝法人事務局長財務課長兼大学会計課長ご母堂) 2016.10.17

柏本 雄幸様

(元大学教員) 2016.10.21

出下 勇様

(山口明美総合学生支援センター1教務課兼学部事務室課長代理ご尊父) 2016.11.6

人事

採用

磯部祐実子

大学国際教養学部専任講師 (2016.9.20付)

渡邊 真以 大学実験実習助手 (2016.9.20付)

野村千奈美 大学事務局庶務課技術職員 (2016.10.1付)

退職

塚本 宏美 (2016.9.30付)

日誌

10.1(土) 創立記念日

10.5(水) 大学・大学院秋季卒業礼拝・卒業証書学位記授与式

10.5(水)・6(木) 公認会計士監査

10.8(土) 幼稚園運動会

10.8(土) 幼児教育心理学科設立10周年記念特別講演

10.13(木) 事務協議会

10.13(木) 経営会議

10.15(土) 定期評議員会

10.25(火) 理事会

10.28(金) 研修会

11.3(木) 中高文化祭

11.8(火) 経営会議

11.10(木) 事務協議会

11.17(木) 学院運営協議会

11.19(土)・20(日) あやめ祭

11.22(火) 園長選考委員会

11.22(火) 理事会

12.7(水) 大学人権問題

12.8(木) 事務協議会

12.15(木) 経営会議

12.17(土) クリスマスオープン

キャンパス



